



ちょっとお出かけ い〜な旅
2017/05/9 (火)

平成 29 年度 第 1 回

い〜なガイドの会
プロジェクトチーム
北條 久美子

初夏の里山と井月の足跡を訪ねて

井上井月は、幕末から明治中頃までの約30年間を伊那谷で過ごし、村の家々をまわり世話になったお礼に数多くの俳句を残した放浪の俳人です。今年のツアー第1弾はその井月の足跡をたどる旅でした。

まず訪ねた所は[井月のお墓]。大きな杉の木の根元にある自然石のお墓の句は、読み取る事ができませんでした。お墓から少し歩いた所にある井月の終焉の地とされる[大田窪]には「落栗の座を定めるや窪溜り」の句碑が、井月を慕って墓参りに来た山頭火の句碑と一緒にありました。

井月が晩年に行倒れになり戸板で運ばれたであろう道筋を、逆方向から車を進め、火山峠の「芭蕉の松」に寄りました。見事な枝振りの老松で、根元には、井月と芭蕉の句碑がありました。峠道を下った所にある伊那森神社には、本殿北側にケヤキの巨木があり、このケヤキ越しに中央アルプスの代表的な雪形である「島田娘」を見ることができました。

今回の旅の楽しみのひとつが「ななちゃん」でのランチタイム。お腹も満足したところで、シルクミュージアムを見学してから[蔵澤

寺]を訪れました。ここは、中沢地区の中心にある古刹で、三門が大変立派ですが門の裏表が逆になっているそうです。中沢は見事な一本桜が多く有る所として知られていますが、蔵澤寺の桜は樹齢300年を超えるみごとな古木でした。

井月はまた筆字が巧みで、多くの真筆の碑が建てられています。伊那森神社、蔵澤寺に続き駒見大橋、光前寺、かんてんぱぱガーデン等の句碑を鑑賞しながら井月の愛した伊那谷の風景を楽しみ、初夏の花にも出会える旅でした。